

災害時の協力を誓う

▶ 握手をして協力を誓う小掠会長（左）と山口町長（右）



大山町と大山町建設業協議会（小掠博文会長、28社）は5月28日、地震や風水害などの災害が発生した場合に、町民の生命や財産を守り、安全を確保するための応急対策業務に関する基本協定を締結しました。内容は、建物の崩壊にともなう障害物の除去のほか、道路や河川などの機能確保や応急復旧作業、建設資機材などの調達・輸送などで、全部で7項目にわたります。これにより、大山町の災害時における対応が迅速かつ的確に行える体制ができました。

今後、連絡体制など細部についての協議を重ね、もしもの時に備えます。

グラウンドに緑の芝を

大山小のグラウンドで芝張り作業



6月10日（火）、大山小学校（金田吉人校長、103人の児童たちがグラウンドの芝張り作業を行いました。4年生から6年生までの38人が先生の指導のもと、37坪×30坪のマット状に裁断された芝を4坪間隔に並び、野球の内野部分を除く200メートルトラック内の約1500㎡に張っていきました。限られた時間の中で、児童たちは手際よく作業を進め、予定されていた区画の芝張りを終え、流れる汗をぬぐっていました。

これは、昨年9月の大山町定例議会の一般質問で「小学校のグラウンドに芝生を植え、子どもにのびのびとスポーツができる環境を」と出されたのに対し、大山小学校でモデル的に行われたものです。

低予算に悩む学校に対し、大山町建設業協議会（小掠博文会長）から整地作業など全面的に協力をいただきました。芝は、秋には一面緑となる予定です。「安全で美しい運動場で、子どもたちにおもいきり身体を動かし、健康・体力づくりに生かしてほしいです」と金田校長は話します。

父への感謝をバラに込めて

米子地区花き生産者協議会バラ部会は、父への感謝、敬意、家族の対話、花き需要の啓発のため「父の日にバラを贈ろう」と毎年、生産者が住む市町村へバラの花束と花かごを贈ってPRしています。

6月11日（水）に、日本ばら切花協会鳥取県支部長の大原広己さん（所子）が協議会を代表し、町長にバラを贈りました。大原さんは、「父の日にバラを贈ることをぜひ習慣に」と話しました。



大原さんからバラを受け取る山口町長



名和地区一斉清掃

町をきれいに

6月1日の日曜日、早朝から名和地区で一斉清掃が行われました。

当日は、名和地区のうち25部落・区が取り組み、地元周辺の草刈り、側溝掃除、海岸清掃などを行いました。清掃後は、投げ捨てられたごみなども片づけられ、大変きれいになりました。